

第8回 青森県総合教育会議

〔 日時：平成30年10月30日(火) 14:30～
場所：青森県庁南棟2階 第三応接室 〕

次 第

- 1 開 会
- 2 知事あいさつ
- 3 議 事
 - (1) 教育施策の大綱の方向性について
概要説明（企画調整課長）
 - (2) 本県教育の現状と課題を踏まえた教育施策の方向性について
 - ①概要説明（教育政策課長）
 - ②意見交換
- 4 閉 会

青森県教育施策の大綱の方向性について

1 現行青森県教育施策の大綱

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の3に基づき定める当該地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策をまとめたもの。

現行の青森県教育施策の大綱については、平成27年5月に平成27年度から30年度までを期間として策定。

県基本計画未来を変える挑戦の教育関連部分と同内容の県教育振興基本計画と同一の内容としている。

2 青森県教育施策の大綱の方向性

次期県基本計画においても教育に関する基本的な方針について「教育・人づくり分野」に定めている。

県教育委員会では次期県教育振興基本計画について、現行計画と同様に次期県基本計画の教育関連部分と同一の内容にする方向で検討していることから、次期教育施策の大綱についても同様に、次期県教育振興基本計画と同一の内容にする方向で検討を進め、今年度中に策定することとしたい。

【参考】次期県基本計画（原案）教育・人づくり分野（生活創造社会の礎）

※教育関連施策抜粋

政策1 あおもりの未来をつくる人財の育成

- 施策(1) 青森を理解し、世界に向かってチャレンジできる人づくり
- 施策(2) 「知・徳・体」の調和のとれた「生きる力」の育成
- 施策(3) 一人ひとりの教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進
- 施策(4) 子どもが安心して学び、多様な能力を伸ばすための教育環境の整備
- 施策(5) 「生きる・働く・学ぶ」をつなぐキャリア教育の推進
- 施策(6) 学校・家庭・地域が連携し社会全体で子どもを育む仕組みづくり

政策2 あおもりの今をつくる人財の育成

- 施策(1) 活力ある持続可能な地域づくりのための人づくり
- 施策(4) 生涯を通じた学びと社会参加活動の拡大

政策3 あおもりの活力をつくる文化・スポーツの振興

- 施策(1) 歴史・文化の継承と活用
- 施策(3) 健康でスポーツに親しむ環境づくりと競技力の向上

次期青森県基本計画 原案の概要 (教育関連部分抜粋)

平成30年9月

青森県企画政策部企画調整課

構成(目次)

序章

第1章 青森県を取り巻く環境変化

第2章 2030年の青森県のめざす姿

第3章 全県計画4分野

第4章 地域別計画

第5章 取組の重点化

第6章 計画の推進

序章

■ 基本的な考え方

- ・県行政全般に係る政策及び施策の基本的な方向性について総合的かつ体系的に示した県行政運営の基本方針。
- ・2030年における「生活創造社会」の実現をめざす。
- ・「人口減少克服」を本県の最重要課題に位置付ける。
- ・県民の自主・自立の取組や、自助・互助・共助の取組を尊重する。
- ・「まち・ひと・しごと創生青森県総合戦略」を、次期基本計画においても、人口減少対策に係る取組のアクションプランに位置付ける。

■ 計画期間

5年間(2019年度～2023年度)

第2章 2030年の青森県のめざす姿

2030年のめざす姿（教育・人づくり）

学校・家庭・地域が連携し、社会全体で、子どもたちが、ふるさとを愛する心を持ち、グローバルな視野で新しい時代を主体的に切り拓く「生きる力」を育てています。

若者や女性など多様な人財が、地域で活躍するリーダーとして育ち、生業づくりや地域づくりに取り組んでおり、このような輝く人財の姿や地域の魅力に惹かれ、青森県に移り住む人や関わりを持つ人が増えています。

生涯を通じて、学びの機会や継続的にスポーツに親しむ環境が充実し、ふるさとの歴史や文化、芸術に触れたり、社会貢献活動や地域活動に主体的に参加するなど、「仕事」も「余暇」も充実した毎日を送っています。

第3章 全県計画4分野

- 現計画に引き続き、「産業・雇用」、「安全・安心、健康」、「環境」、「教育・人づくり」の4分野を設定し、各政策・施策により取組を展開。

産業・雇用分野
(しごとづくりと所得の向上)

安全・安心、健康分野
(命と暮らしを守る)

環境分野
(自然との共生、低炭素・循環による
持続可能な地域社会)

教育・人づくり分野
(生活創造社会の礎)

第3章 全県計画4分野

○分野別政策体系

4 教育・人づくり分野(生活創造社会の礎)

政策1 あおもりの未来をつくる人財の育成

政策2 あおもりの今をつくる人財の育成

政策3 あおもりの活力をつくる文化・スポーツの振興

<主なポイント>

- 学校における働き方の見直し、地域・外部人財との連携強化
- 小・中・高・大、就職までのつながりや将来の生き方を意識したキャリア教育推進
- 移住・定住の促進、多様な働き方を可能とする学び直しの機会づくり
- あらゆる分野における女性の活躍推進
- 「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界文化遺産登録をめざす取組の推進

第8回青森県総合教育会議

本県教育の現状と課題を踏まえた
教育施策の方向性について

平成30年10月30日

次期県基本計画原案における教育施策の体系

政策	施策	主な取組
<p>あおもりの未来をつくる人財の育成</p>	<p>1 青森を理解し、世界に向かってチャレンジできる人づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土への理解促進 ・国際交流などを通じた異文化理解促進
	<p>2 「知・徳・体」の調和のとれた「生きる力」の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学力の向上、いじめ防止、健康な体の育成に向けた取組 ・教員の指導力の向上
	<p>3 一人ひとりの教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・通常の学級に在籍する特別な教育的ニーズのある児童生徒への指導・支援 ・特別支援学校における職業教育・進路指導の充実
	<p>4 子どもが安心して学び、多様な能力を伸ばす教育環境の整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安全・安心な教育環境の整備 ・学校における働き方改革の促進、指導体制の充実
	<p>5 「生きる・働く・学ぶ」をつなぐキャリア教育の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・企業等と連携した地域課題解決学習の充実 ・県内就職促進・早期離職率改善に向けた取組
	<p>6 学校・家庭・地域が連携し社会全体で子どもを育む仕組みづくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校・家庭・地域の連携による学校支援活動・家庭教育支援の充実、困難を抱える子どもへの支援の充実
<p>あおもりの今をつくる人財の育成</p>	<p>7 活力ある持続可能な地域づくりのための人づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人財のネットワーク化の促進 ・学び直し等のキャリア形成支援
	<p>8 生涯を通じた学びと社会参加活動の拡大</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な学びの機会の提供 ・図書館サービスの充実
<p>あおもりの活力をつくる文化・スポーツの振興</p>	<p>9 歴史・文化の継承と活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財の保存、活用、情報発信 ・三内丸山遺跡の魅力向上
	<p>10 健康でスポーツに親しむ環境づくりと競技力の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・県民の健康づくり、スポーツに親しめる環境づくり ・競技力の向上

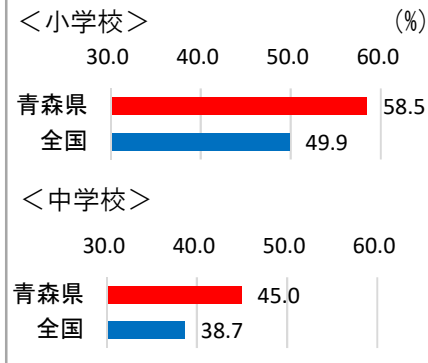
1 青森を理解し、世界に向かってチャレンジできるづくり

【現状・課題】

- ・子どもたちが、ふるさとあおもりに誇りや愛着を持つよう、郷土の歴史や自然、文化に対する理解を深める必要がある。
- ・社会のグローバル化の一層の進展が見込まれることから、子どもたち一人ひとりが国際感覚やコミュニケーション能力を身に付ける必要がある。

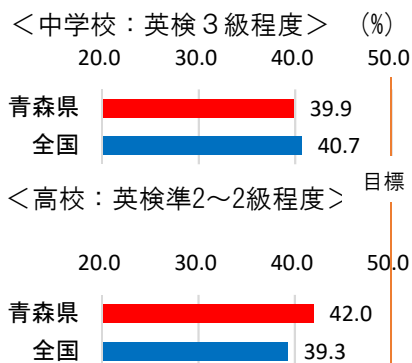
【参考】

○地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある児童生徒の割合



(H30全国学力学習状況調査)

○求められる英語力を有する生徒の割合



(H29英語教育実施状況調査)

【今後の方向性】

- ・地域活動や自然体験活動を通して、児童生徒がふるさとの伝統文化、歴史や自然等を理解し発信するなどの取組を充実する。
- ・国際社会で活躍できる実践力を身に付けるため、英語力を始めとするコミュニケーション能力の向上や、国際交流などを通じた異文化理解の促進を図る。

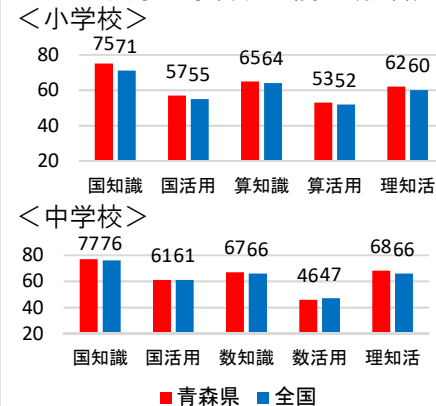
2 「知・徳・体」の調和のとれた「生きる力」の育成

【現状・課題】

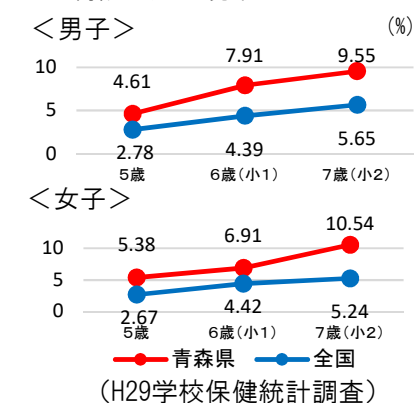
- ・子どもたちの学力は、基礎的・基本的な知識・技能はおおむね定着しているが、思考力・判断力・表現力の一層の向上が必要である。
- ・SNSの普及等により、子どもを取り巻く環境がより複雑化しており、周囲がいじめ等に気付きにくい状況にある。
- ・肥満傾向児出現率は改善傾向にあるものの、依然として全国平均よりも高い状況にある。

【参考】

○H30全国学力学習状況調査(教科)



○肥満傾向児出現率



(H29学校保健統計調査)

【今後の方向性】

- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善、英語力の向上に向けた指導力の向上等に取り組む。
- ・児童生徒の主体的ないじめ防止活動を促進し未然防止に向けた意識高揚を図るとともに、教員のスキルアップ等に取り組む。
- ・幼少期からの望ましい運動習慣、食習慣の定着に向けて、小学校を中心に幼稚園や中学校、保護者、地域等が一体となって取り組むための体制づくりを支援する。

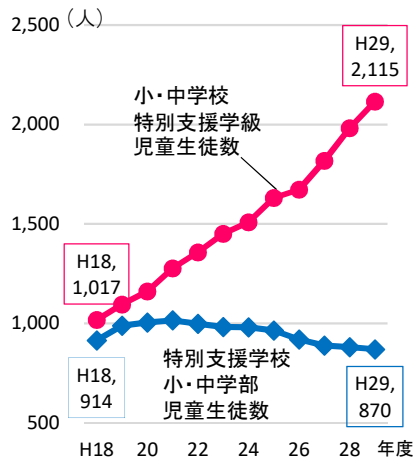
3 一人ひとりの教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進

【現状・課題】

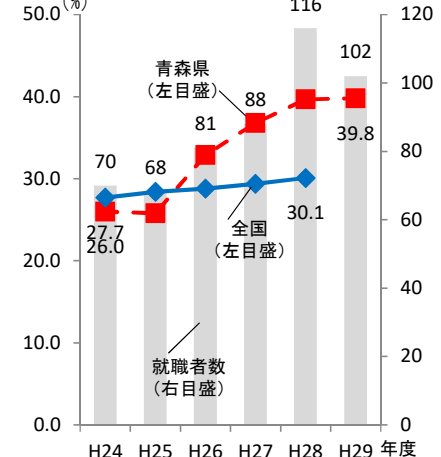
- ・特別支援学級の児童生徒の増加を踏まえ、各学校における指導・支援の充実を図るとともに、通常の学級に在籍する特別な教育的ニーズのある児童生徒への対応が必要である。
- ・特別支援学校高等部の就職者数は高水準を維持しており、引き続き、推進する必要がある。

【参考】

○特別支援学校及び特別支援学級児童生徒数の推移



○特別支援学校高等部生徒の就職者数及び就職割合



【今後の方向性】

- ・発達障害など特別な教育的ニーズがある生徒の学びの支援として個別の指導計画及び個別の教育支援計画作成促進を図る。
- ・特別支援学校高等部生徒の就労促進に向けて、青森県版技能検定の開催等、特別支援学校におけるキャリア教育・職業教育の充実に取り組む。

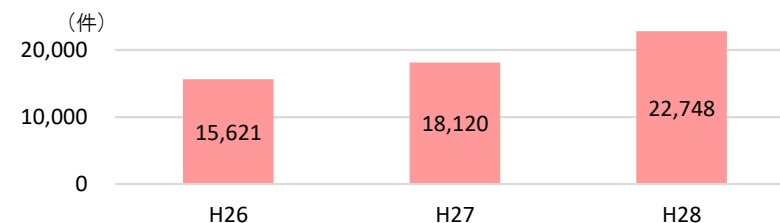
4 子どもが安心して学び、多様な能力を伸ばす教育環境の整備

【現状・課題】

- ・平成28年度より教員の多忙化解消に向けた取組を進めているが、文部科学省からの緊急提言を踏まえ、一層の取組の推進が求められている。
- ・県「いじめ防止基本方針」に基づき、学校におけるいじめ防止等に関する組織的な対応の充実を図る必要がある。
- ・学校におけるICTを活用した学習の実践に向け、環境の整備や指導力の向上等が必要である。

【参考】

○スクールカウンセラー相談件数（県内公立小・中・高合計）



○学校における主なICT環境の整備状況、ICT活用指導力

	普通教室の無線LAN整備率	超高速インターネット接続率(100Mbps以上)	授業中にICTを活用して指導する能力
青森県	27.5%	69.9%	76.2%
全国	34.4%	62.5%	76.5%

(H29学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果)

【今後の方向性】

- ・学校における働き方改革の推進やICT環境の充実、少人数学級編制の推進を含めた指導体制の充実を図る。
- ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置の充実に取り組む。
- ・高等学校教育の充実に向けて、青森県立高等学校教育改革推進計画の着実な推進に取り組む。

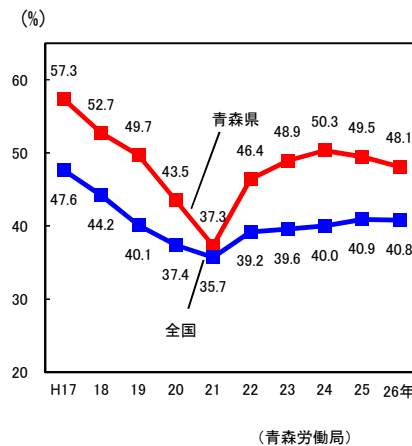
5 「生きる・働く・学ぶ」をつなぐキャリア教育の推進

【現状・課題】

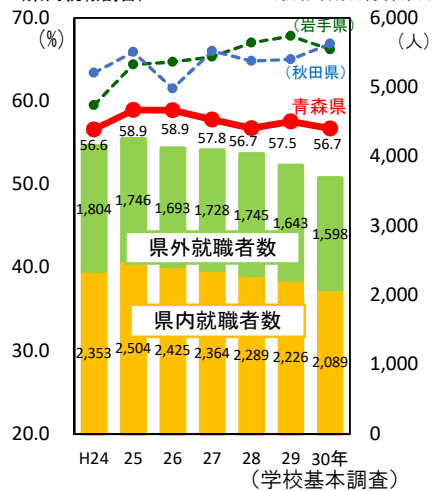
- ・高等学校卒業後、本県に就職した者の早期離職率が全国平均より高い状況が続いており、キャリア教育の一層の充実が求められる。
- ・高等学校卒業後、就職する者のうち、県内に就職する割合が他県と比較し低い傾向にある。

【参考】

○県内企業における新規高卒者の就職後3年以内の離職率



○高校卒業後の就職者の状況
(県内就職割合) (就職者数(青森県))



【今後の方向性】

- ・小・中・高等学校の連続性と発展性を意識した児童生徒のキャリア形成支援の充実を図るとともに、各学校におけるインターンシップや資格取得等の支援を行う。
- ・高校生の県内就職の促進とミスマッチ等による早期離職防止に向けて、県内企業や関係団体等とのネットワークを活用した就職支援や、職業観・勤労観育成のためのキャリア教育の充実を図る。

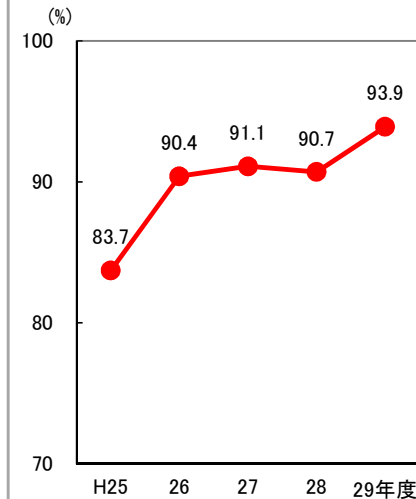
6 学校・家庭・地域が連携し社会全体で子どもを育む仕組みづくり

【現状・課題】

- ・子どもを取り巻く複雑化・困難化する諸課題に対応するため、学校・家庭・地域が一層連携する仕組みづくりが求められる。
- ・地域とともにある学校づくりに向けて、学校と地域が連携して子どもたちの教育に取り組む体制づくりが必要である。

【参考】

○県内小・中学校におけるボランティア受入割合



○地域学校協働本部の実施状況

青森県公立小中学校のうち
89校 20.0%実施
(全国平均36.5%)
※H29現在

○コミュニティスクール(学校運営協議会制度)の導入状況

青森県公立学校のうち
34校 6.5%実施
(全国平均14.7%)
※H30現在

【今後の方向性】

- ・学校と地域の連携・協働体制の構築を促進する。
- ・地域全体で家庭教育を支える仕組みづくりを支援する。

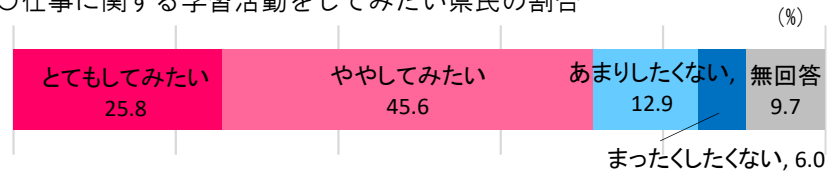
7 活力ある持続可能な地域づくりのための人づくり

【現状・課題】

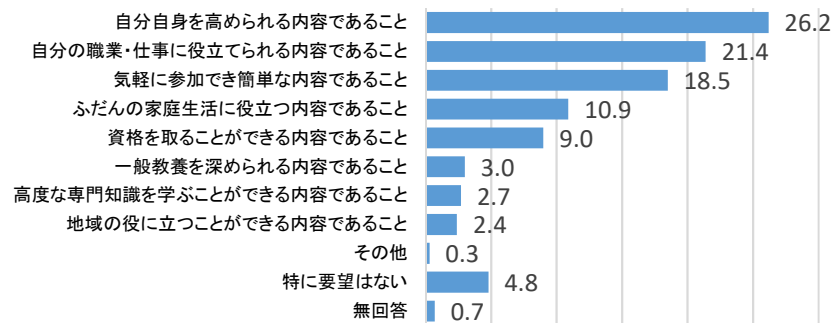
- ・人生100年時代を見据え、職業に必要な知識やスキルを通じて身に付けるための社会人の学び直しの推進が求められる。
- ・学び直しにつながる大学、専修学校等の学習機会の情報が体系化されていない。

[参考]

○仕事に関する学習活動をしてみたい県民の割合 (%)



○学習活動に参加する場合に重視する内容 (%)



(H27学習活動に関する県民の意識調査)

【今後の方向性】

- ・若者・女性の学び直しから社会参画につながるキャリア形成支援に取り組む。

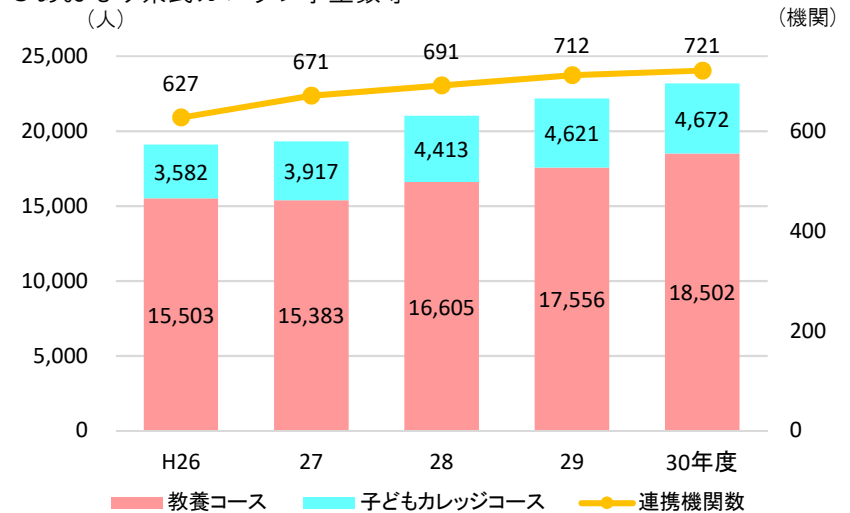
8 生涯を通じた学びと社会参加活動の拡大

【現状・課題】

- ・全ての人が生涯を通じて学び続け、学んだことを活かして活躍できるよう、意識の啓発と環境の整備が必要である。
- ・少子高齢化が進む中において地域の活力を生み出すためには、若年世代を含む各世代の社会参加活動の促進が一層必要である。

[参考]

○あおもり県民カレッジ学生数等



【今後の方向性】

- ・公民館や図書館等を活用した学びの機会の充実、環境の整備、理解と関心の普及啓発を図る。
- ・関係機関との連携により、県民の多様なニーズに応じた学習機会の提供や、学習成果を生かした社会参加活動の支援に取り組む。

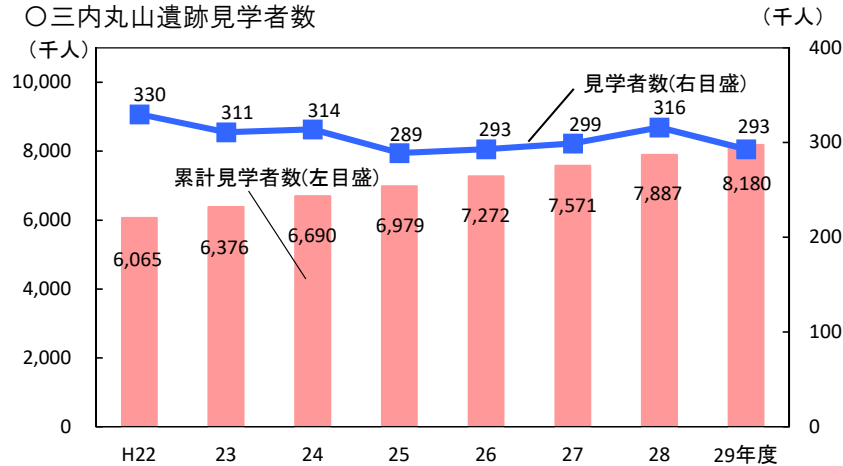
9 歴史・文化の継承と活用

【現状・課題】

- ・ 過疎化、少子高齢化などを背景に、文化財の逸失や散逸等の防止が喫緊の課題となっており、文化財をまちづくりに活かしつつ、地域社会総掛かりで、その継承に取り組む必要がある。
- ・ 三内丸山遺跡と縄文時遊館は、平成31年度に三内丸山遺跡センターとして設置されることから、三内丸山遺跡のさらなる魅力向上に取り組む必要がある。

【参考】

○三内丸山遺跡見学者数



【今後の方向性】

- ・ 文化財を適切に保護・保存するとともに、関係部局や市町村と連携して文化財の価値や魅力を発信する取組を推進し、文化財保護意識の醸成を図る。
- ・ 縄文遺跡群の世界遺産登録を見据え、特別史跡三内丸山遺跡を人類共通の財産として、次世代へ着実に継承するため、積極的な保存・活用に取り組む。

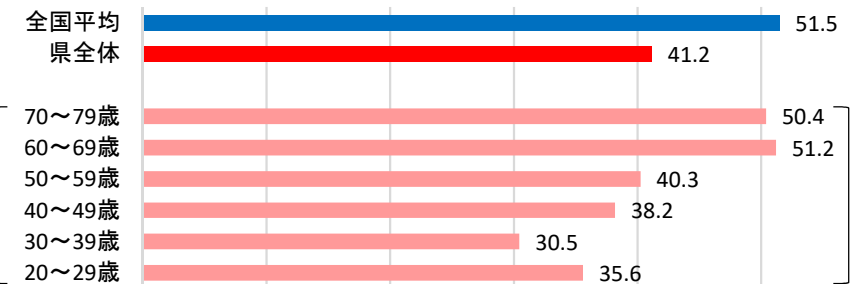
10 健康でスポーツに親しむ環境づくりと競技力の向上

【現状・課題】

- ・ 本県のスポーツ実施率は全国平均を下回っている状況が続いており、健康づくりに向けて、運動を継続的に行うきっかけづくりが必要である。
- ・ 本県での第80回国民スポーツ大会開催に向けて、計画的な競技力向上に取り組む必要がある。

【参考】

○スポーツ実施率（週1回以上スポーツを実施する割合） (%)



(H30県民の健康・スポーツに関する意識調査(県教育委員会)
H29スポーツの実施状況等に関する世論調査(スポーツ庁))

○国民体育大会成績

	H25	H26	H27	H28	H29
天皇杯	34位	43位	40位	40位	35位
皇后杯	36位	43位	43位	40位	46位

【今後の方向性】

- ・ 地域における運動機会の提供等により、県民のスポーツを通じた健康づくりへの意欲喚起に取り組む。
- ・ 第80回国民スポーツ大会開催に向け、着実な準備を進めるとともに、競技力向上対策を計画的に進める。